

東日本大震災 復興・支援活動ニュースレター

カトリック仙台司教区・カリタスベース

発行人：平賀徹夫
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座:02260-9-2305
名義:カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座:00170-5-95979
名義:カリタスジャパン

今年の夏も、各カリタスベースなどでは夏らしい活動がありましたので、今号と次号に分けてご紹介します。今回は、岩手県で開催された「夏休み子どもキャンプ」、「心の港」のメンバーが石巻ベースで体験した日本のお祭り、「すすきだ音楽隊」のコンサートの様子をご紹介します。最後に、8月末に発生した台風10号による岩手県内の被害状況の報告が、カリタスベースから届きましたので、お知らせします。

夏休み子どもキャンプに参加して

カリタス大船渡ベース 休石 千枝

7月26日(火)、27日(水)の両日、1泊2日で、種山高原「星座の森」で、夏休み子どもキャンプが開催されました。今年で2回目となるこのキャンプは、「いっばいっば岩手」、「子ども夢ハウスおおつち」、カリタス大槌ベース、カリタス大船渡ベースの共催で、大船渡・釜石・大槌の小・中学生約30名が参加して行われました。大船渡からは、小1～小3までの男女6名が参加しました。

梅雨明け前という事もあり、今にも雨が降り出しそうな曇り空の中、キャンプが始まりました。「遊林ランド種山」で顔合わせ。元気いっばいの子もたちのパワーに圧倒され、しっかり見守らなければと気を引き締めました。

昼食後、「いっばいっば岩手」のスタッフが講師となり、牛乳パックを利用した万華鏡作りをしました。銀紙を貼りつけた牛乳パックを三角柱にし、模様となる飾りをプラスチック板で作りました。私たちリーダーも万華鏡作りは今日が初めて。子どもたちと四苦八苦しながら完成させることができました。

その後、「星座の森」に移動し、子どもたちが待ちに待っていたバーベキューやキャンプファイヤー、そして花火をしました。バーベキューでお腹を満たしたのち、キャンプファイヤーです。宿泊をするロッジごとに出し物をしました。怪談やクイズの他、宝探しや鬼ごっこといったユニークな出し物もあり、子どもたちの柔軟な思考力に感心しました。



次に花火をしました。残念なことに、途中で雨が降り出したので早めにロッジに戻ることにしました。星座観測もする予定でしたが、雨ではどうにもなりません。満天の星空が見られなかったのはとても残念でした。

2日目の朝は雨も止んでいた。森の案内人の方3名と一緒に、森林探索に向かいました。途中で、触ってはいけない植物や珍しい植物の説明を受けながら、細く険しい山道を登って行くと、急に大きくゴツゴツとした岩場に出ました。最初の目的地「物見山」山頂です。ここは宮澤賢治がとても好きだった場所で、残丘（モナドノックス）という大きな岩があるのですが、その岩に子どもたちはよじ登り、景色を眺めています。子どもたちの好奇心、そして身軽さに驚きました。物見山頂上からの眺めは、雲が重く立ちこめてはいましたが、疲れを吹き飛ばす清々しいものでした。

ここからどんどん深い森の中へ入って行きました。この辺りから雨となりましたが、木々が傘代わりになり、最初は雨を気にすることなく歩くことが出来ました。しかし、次第に落ち葉が堆積した地面が雨を含み、私たちの靴を濡らし始め、足元も滑りやすくなりましたが、全員無事に最終目的地の「水辺の広場」まで歩き切ることができました。ばんざーい。



【キャンプ2日目】 物見山



笹の葉を使ったミニ草履作り

昼食を挟んで、午後は、森の案内人の方から草木を使った遊びを教わりました。とても簡単な笹の葉を使ったミニ草履と草花の茎を笛にする遊びでした。子どもたちは上達も早く、ピーピーという音が会場中に響き渡りました。

こうして、自分で作った作品と思い出をお土産にキャンプは終了しました。

お天気には恵まれない2日間でしたが、元気な子どもたちと忘れられない経験をすることができました。短い時間でしたが、私の目には、子どもたちがとても逞しくなったように見えました。



キャンプ参加者みんなで記念撮影

日本の祭りに参加して

ローマカトリック教会ボランティア団体「心の港」

マチエイ ハミエル シェミンスキ

私は3ヶ月前、ポーランドから日本に来ました。外国人にとって日本のお祭りは、とても面白いです。浴衣を着たり、踊ったりします。

8月1日、石巻で「第93回川開き祭り」が行われました。カリタス石巻ベースでは、毎年、ベースがある末広町の町内会の方々が参加している「大漁踊り」に、町内会からの参加依頼を受け、参加しています。石巻ベースで活動に参加しているボランティアは、皆、町内会から借りた浴衣や法被を着て、街で踊りました。

「すすきだ音楽隊」

横浜教区 カトリック戸塚教会 佐野 純三

音楽は力である。演奏家と、時間と空間を共有するすべての人を包み込み、音楽に込められたメッセージを、各々、感じとる。それが「すすきだ音楽隊」の演奏家たちの被災された方々への「寄り添い」。

「すすきだ音楽隊」は、イエズス会司祭の薄田昇神父様の甥御さんで、読売日本交響楽団のヴァイオリン奏者、薄田真さんと、パーカッショニスト、マリンバ奏者である真樹さん夫妻が主宰し、大学の同級生を中心とした箏、三味線、地歌、ピアノの演奏家の寛大な協力を得て編成される。各々の演奏家は第一線で活躍する一流の音楽家。薄田夫妻はカトリック信徒でもある。

今回で6回目になる東北チャリティーツアーは、8月5日から11日まで、連日、石巻市、松島町、南三陸町、釜石市、大槌町などの仮設住宅集会所、カリタス石巻ベース、老人ホーム、公民館、こども施設等9ヶ所で開催された。東京からワゴン車にマリンバや箏など大型楽器を積み込み、会場への運搬、組み立て、演奏後の撤収を繰り返す。

演奏家たちが実践することの一つに、楽器を組み立てた後、最低でも2時間は会場の空気にさらすこと。会場の雰囲気、温度、湿度に楽器をなじませるためであり、最高の音楽を演奏するためである。妥協を許さないプロフェッショナリズム。演奏曲は、クラシック、邦楽、地歌、民謡等多岐にわたる。



南三陸で行われたコンサートは、ヴァイオリン、マリンバ、三味線の協演♪

塩釜教会の信徒である鶴田マリ子さん経営のデイケア施設「松島マミーホーム」での8月7日のコンサートでは、ヴァイオリン、マリンバ、ピアノ、箏、三味線、地歌の4人の演奏家のソロや協演。日曜日でデイケアの利用者は少ないとのことだったが、それでも塩釜教会の信徒さんも含め30名を超える聴衆。演目には、「斉太郎節」も。皆さんが、演奏家と一体となって、音楽に満たされた空間から明日への力・希望をそれぞれのやり方で取り入れてくださったと思う。コンサートの最後には、デイケア施設利用者スタッフ皆さんで「花は咲く」の踊りを演奏者へのお礼に。



松島における洋楽器、邦楽器の協演



朝早くからスタッフが準備を始め、午前10時頃、近所の人々が浴衣や法被を持って来てくれました。今回、「心の港」からは、3名が参加しました。着物を着てから、踊りの練習をしました。何回も練習しましたが、思ったよりテンポが早く、覚えにくかったです。ランチタイムでも、イベントについて打ち合わせをしました。美味しいランチをいただいてから、また三回踊りの練習をしました。

午後3時頃、イベント会場に出席しました。石巻の祭りは、とても大きいです。いろいろなパフォーマンスが行われます。外国人にとって、とても面白いです。特に、私たちは日本人と一緒に「大漁唄い込み」を踊ったので、周りの人は興味深く見ていました。50分くらい踊っても楽しかったので、疲れを忘れてもっと踊りたかったです。

夜には、「心の港」のメンバーと一緒に花火大会を見ました。こんなに綺麗な花火を長い時間見るのは初めてでした。

来年も参加したいです。

◆心の港について

「心の港」は、2012年10月、仙台市に開かれました。4名ほどの人数で、共同生活をしながら、ボランティア活動などに勤しんでいます。ホームレスの方々への炊き出し・夜回り、カリタスベースや小教区が行っている東日本大震災復興支援活動などの活動に、積極的に参加されています。

今年、マチェイさんは、41回を数える「仙台平和七夕」の製作・飾り付けに、大活躍されました。その様子は、仙台平和七夕のFacebookやブログに紹介されています。

※仙台平和七夕は、市民グループ「平和を祈る七夕市民のつどい」が1976年から仙台七夕に併せて行っている活動で、全国から寄せられるノーモアヒロシマ・ナガサキ、震災の復興の願いが込められた折り鶴を吹き流しにして飾るものです。今年は、5本の吹き流しが飾られ、9,200本のレイが、七夕を見に来た方々に配られました。



「心の港」の詳しい様子は、Facebookやブログをご覧ください。

心の港ブログ <http://kokoronominato.blogspot.jp/>



心の港のメンバー（シルヴィさん、ハイジさん、マチェイさん、ポール神父様）

前日の8月6日には、カリタス石巻ベースのサロンで、ヴァイオリンの薄田真さんとマリンバのすすきだ真樹さんのコンサート。準備した席はほぼ満席。顔見知りの利用者を中心に27人の聴衆。すすきだ真樹さんが指導し、2月のアンサンブル・コンテスト東北大会(ファイナル)で優勝した石巻市立釜小学校の「打楽器アンサンブルチーム」のメンバーも。カリタス石巻ベースでの「すすきだ音楽隊」のコンサートは本年4月に続いて2回目。街の中心に位置する石巻ベースは、日頃の活動、仮設住宅での茶会はもちろん基本だが、その地の利を生かし、音楽イベントのみならず、他のイベント、集会、生涯学習等の地域の活動の中立的コアの場に発展できるのでないか。それには、常駐するスタッフ、サポートするボランティアの確保が不可欠だが。

「すすきだ音楽隊」は演奏する各々の場所で「出会い」があり、「寄り添い」に繋がり、小人数の演奏家グループだが、残す「力」は大きい。彼らの演奏が何よりも「祈り」であり「心」がこもっているからである。ボランティアとしてこのようなイベントに参加できた喜びは大きい。感謝。



カリタス石巻ベースでの薄田夫妻の演奏

台風10号による被害状況について

8月30日に東北地方に上陸した台風10号により、亡くなられた方、不安な思いで過ごされている方へ、心よりお見舞い申し上げます。

カリタスベースには、大きな被害はありませんでしたが、仙台教区内の教会、施設の被害としては、カトリック久慈教会が、1.5メートルほどの床上浸水にみまわれました。

今回の台風により被害を受けた地域の様子について、カリタス大槌ベースとカリタス釜石からご報告がありましたので、お伝えします。

なお、ボランティアのニーズ、受け入れ状況は各自治体で常に変化しますので、現在のところ緊急のボランティア募集は行っていません。

近年、日本各地で大きな自然災害が起こっておりますので、どうか皆様、日頃の備えを大切になさってください。

《カリタス大槌ベースからの報告》

観測史上初となる台風の東北（大船渡）上陸があり、大槌町でも少なからず被害がありました。

台風上陸当日には、昼の早い時間から避難準備情報が流れ、大槌、小槌川の増水による河川下流地域への避難指示が、大槌町全人口12,000人のうち約7,500人に対して出されました。

町内に4か所の避難所が開設されましたが、町役場付近の城山体育館、大槌高校などはすぐに満員となり、そのほかの避難所は川の上流地域に当たり、避難指示が発令された時点で、すでに河川からあふれた川の水により、その場に行くことが困難になっていました。

そのため、多くの住人が、家の2階や近隣の高台駐車場などでの待機という形で、大雨、強風の中を過ごしました。

幸い、両河川ともに氾濫することではなく、人的被害も確認できていませんが、河川近くまた山の際にある仮設住宅などにおいて、道路や沢水による床上浸水の被害が、多数出ました。特に浸水被害のひどかった大槌第12仮設などでは、仮設住宅に住む全世帯で、電化製品、日用品など、全てが浸水するという被害が出ました。

9月2日現在、役場職員、ベーススタッフ、ボランティアなど力を合わせて泥だしや掃除を行っています。そこに住んでいた住人は、すでにほかの仮設へと移り、とりあえず寝るところは確保できているので、そこだけは安心なところですよ。

物品などで被害が出ましたが、住民の方によると、「物がなくなるのはしょうがないけど、水が迫ってきたとき、大震災当時のことを思い出してしまった。やはりあの時の恐怖が消えることはないねえ。」と話されていたことが印象に残ります。あれから5年以上が過ぎますが、心の中に残る大震災の記憶を癒すには、まだ時間が足りないのかもしれない。

気候の変化により、またいつこのようなことが起こるかわかりません。日本各地でいろんな災害が起こっていますが、何が起こっても対処できるよう、少しでも住人に寄り添っていけるよう、日ごろから準備をしておかなければと、改めて感じました。

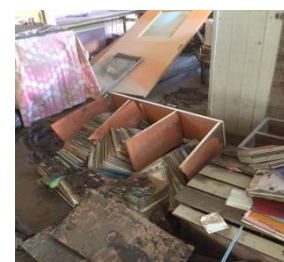
《カリタス釜石からカトリック久慈教会での活動報告》

カトリック久慈教会で、9月5日、6日の2日間、6名で活動しました。久慈教会の被害状況としては、床上1.5メートル程度の浸水があり、それに伴い、泥が建屋内全域に積もっていました。また、併設されている旧聖母幼稚園も、同様でした。園庭部分も地面から30センチ程度の泥が積もっていました。

現場では、仙台教区第2地区責任司祭の佐藤修神父さまと八戸や久慈教会の信者さん6名程度が作業されていました。



旧聖母幼稚園の園庭部分



室内の様子



赤矢印部分まで浸水

活動内容として、家財道具の運び出し、建屋内の泥のかき出しや清掃を行いました。2日間活動をして、家財道具の運び出しは、大体終了しましたが、まだ建屋内の清掃や外壁の洗浄などの作業が残っています。旧聖母幼稚園の建物は、解体するとのことで、道具の運び出しのみを行い、泥のかき出しと清掃作業は行わなくてもいいとのことでした。また、庭園の泥出しに関しても、業者を入れて行われるとのことで、教会建屋の清掃と洗浄が主となります。

今後は、久慈市社協の災害ボランティアセンターへ活動要請を出しましたので、ボラセンからボランティアが派遣されると思います。佐藤修神父さまと信徒の方々は、明日以降も作業を継続されるとのことでした。

※カリタス釜石では、久慈教会での活動の他、3日間、宮古市にて、泥出しの活動を行ったとのことです。



旧聖母幼稚園の室内 左：片付け前



右：片付け後

ニュースレターのメール配信をご希望の方は、お名前などをご記入の上、sdsckoho@gmail.comまでメールをお送りください。次号よりお送りさせていただきます。多くの方に活動状況や被災地の現状を広めていただければ幸いです。